New Technology Information



~新技術情報提供システム~

申請書類作成マニュアル

(関東技術事務所 変更・更新用)

●NETIS申請情報の追加や訂正等を行う場合に使用する書類です。●

・追加や訂正等する箇所の記述を行う際は、必ず本マニュアルを参照して下さい。
(※変更・更新の対象外の箇所については、本マニュアルの書き方で見直す必要はありません。)
・簡易な追加や訂正等を行う場合であっても、必ず本マニュアルを参照して下さい。

※本システムが実行できるのは、Internet Explorer 4.0以上のブラウザがインストールされている Windows95/98、NT4.0が稼働しているパーソナルコンピューターです。あらかじめご了承ください。

< 目 次 >

1. 新技術情報入力システムのインストール手順	•••• p. 1~
2. 新技術情報入力システムの削除(アンインストール)の方法	•••• р. З
3. 新技術情報入力システムの使用方法	•••• p. 4~
4. 提出用ファイルの作成の仕方	•••• p. 22
5. 詳細説明資料(様式3)の作成要領	•••• p. 23~
6. 比較表(様式4)の作成例	•••• p. 28~
7. 変更・更新申請書(様式 I - 15)の記入について	••• р. 30
8. 実施規約 同意書(様式Ⅰ-19)の記入について	••• р. 31
9. 郵送物等送付先登録申請の見本	•••• p. 32
10. コンピュータウイルスについての確認報告書の見本	••• р. 33
11. 注意事項	•••• р. 34

<u>新技術情報入力システムのインストール手順</u>

インストーラーを起動して、新技術情報入力システム(Ver.7.・・・)をハードディスクにイン ストールします。ハードディスクの空き容量が2MB以上必要です。 以下にインストール方法の一例を示します。 これは関東技術事務所申請者用マニュアルです

- 1. エクスプローラーを起動します。
- 2. フロッピーディスクに"ディスク1"をセットしてください。
- エクスプローラーでフロッピーディスクドライブを選択してください。フロッピーディスクド ライブをクリックするとディスクの内容が表示されます。



4. フロッピーディスクの中にある"Setup.exe"をダブルクリックしてください。新技術情報 入力システムのインストーラーが起動します。

これは関東技術事務所申請者用マニュアルです

5. 新技術情報入力システムのインストーラーが起動します。(インストーラーが起動した 画面)



6. 画面の表示にしたがって、入力システムをインストールするフォルダーなどを指定し

回回の私小にしたがって、ハカノハノムとインハー ルチのノオ	ノレノ ふこで1日ノ
インジャン (甘木的に "カス"た選択 アルノボイン)	
しいについ。(基本的に、次へを選択して進んでいこう)	

	次のディスクの打	₹入 X	
	F	次のディスク(ディスク 2)を挿入して下さい。このデ ィスク ファイルが他のドライブなどにある場合は、その パスをすべて入力するか、または[参照]ボタンをクリッ クしてパスを選択して下さい。	
- 11+	パス: <mark>A:¥</mark>	参照(<u>R</u>)	です
L1010		OK キャンセル	C 9

- 7. 途中でディスクの差し替えのウィンドウが表示されます。フロッピーディスクドライブに入っているディスクを抜いて、"ディスク2"を入れ、O.K.を押してください。再度、差し替えウィンドウが表示されたら"ディスク3"に差し替えてから、O.K.を押してください。
- 8. インストールが完了したら、"完了"ボタンを押してください。これで新技術情報入力シ ステムはインストールされました。

これは関東技術事務所申請者用マニュアルです

<u>新技術情報入力システムの削除(アンインストール)の方法</u>

- 1. Windowsのタスクバーより、"スタート"→"設定"→"コントロールパネル"を選択してく ださい。
- 2. "アプリケーションの追加と削除"を選択してください。
- 3. "新技術情報入力システムVer7"を選択して、"追加と削除"ボタンを押してください。

	《《风本汉的子初月千明石月》————————————————————————————————————	_ 7
	アプリケーションの追加と削除のプロパティ ? ×	
	インストールと削除 Windows NT セットアッフ。	
	フロッピー ディスクまたは CD-ROM から新しいアフツケーションを インストールするには、「インストール」をクリックしてください。	
	インストール Ø	
これ	次のソフトウェアは自動的に削除できます。アフッケーションを削除し たり、その構成ファイルを変更するには、一覧から選んで [追加 と削除] を切っりしてください(T)	す
これ	Microsoft Internet Explorer 4.0 Microsoft Music Control Microsoft Outlook Express Microsoft Wallet Microsoft Windows Script Host Software Artisans SA-FileUp 2.0 VDOLive Player Windows NT 4.0 Option Pack WZ EDITOR 3.0	す
	追加と削除(R)	
	OK キャンセル 適用(企)	
これ	は関東技術事務所申請者用マニュアルで	す

※このときに、WindowsのSystemフォルダからいくつかのファイルを削除するかどうか尋ねてきますが、すべて、いいえ、を選択することをおすすめします。

他のアプリケーションがこれらのファイルを共有して使用している可能性があり、削除するとそれらのアプ リケーションが動作しなくなる場合があります。

逆に、これらのファイルがSystemフォルダに残っていても他のアプリケーションに影響はありません。

4. これで新技術情報入力システムは削除されました。

※新技術情報入力システムは削除されましたが、フォルダの中にはファイルが残っている場合があります。 インストール先のフォルダを削除してください。 例) "C:¥Program Files¥NetisINP"(デフォルトのフォルダ名)

<u>新技術情報入力システムの使用方法</u>

新技術に関する情報を新技術情報提供システム(以下、「NETIS:ネティス」と呼ぶ)に登録するためには、新技術情報入力システム(以下、「本システム」と呼ぶ)を使って「新技術 情報(新技術概要説明情報)」、「活用効果の算出根拠」のデータが必要です。 本システムの使い方を以下に説明します。

これは関東技術事務所申請者用マニュアルです ※本システムが実行できるのは、Internet Explorer4.0以上のブラウザがインストールされてい るWindows95/98、XP、NT4.0が稼働しているパーソナルコンピューターです。あらかじめご了承 ください。

1. 入力システムの起動方法

"スタート"メニューから、以下の手順で"新技術情報入力システム"を選択してください。本システムが起動します。

"スタート"→"プログラム"→"新技術情報入カシステムVer.7"→"新技術情報入カシステム" これは関東技術事務所申請者用マニュアルです

 Windows NT בלאס"ם-ק שלאסים ביצאי לישאים איניגער ביצאים ביצאי לישאים איניגער ביצאים בי ביצאים ביצאים ביצא ביצאים ביצאים ביצאים ביצאים ביצאים ביצאים ביצאים ביצאים ביצאים ביצאים ביצ	[回] WZ Editor 3.0 [回] スタートアップ [回] 管理ツール (共通) [回] 新技術情報入力システム Ver7 [2] [3] [4] [4] [5] [5] [4] [5]	新技術情報入力システム □ 公類 □ □ □ □ □ □ □ □ □
 □ 10974.0 □ 最近使ったファイル(0) □ 設定(S) □ 検索(E) 	Boeadmin.exer<0/ya=r/jyr	[1] 77 光程
 ◇ ヘルプ(凹) デ ファイル名を指定して実行(図) ◎ シャットタウン(U) 		

これは関東技術事務所申請者用マニュアルです

これは関東技術事務所申請者用マニュアルです

メニュー画面



* FD = フロッピーディスク

これは関東技術事務所申請者用マニュアルです

これは関東技術事務所申請者用マニュアルです

これは関東技術事務所申請者用マニュアルです

名称・分類等(その1)



名称・分類等(その2)



 ※ 問合せ先の内容は、間違いがないように十分確認してください。
 ※ 開発体制が共同開発の場合、共同開発企業間の同意書(様式自由)を 提出していただきます。

これは関東技術事務所申請者用マニュアルです

これは関東技術事務所申請者用マニュアルです

概要(その1)



- 1 写真や図などは、JPEG あるいは GIF 形式の画像ファイルを使用して下さい。
- 2 画像ファイルの大きさは185Kバイト以内にして下さい。
- 3 画像の横は最大600pixel以内、縦は1000pixel以内にして下さい。 *縦A4サイズで出力できます。
- 4 図面を利用する場合はプリントアウトした時に文字や数字がはっきり分かるものを使用して下さい。
- 5 必ず写真タイトルを入れて下さい。(全角では25文字以内)
- 6 既に記載されている項目に対し、改行してから文章を書き始めること。データの再読み込みで ①②③等の項目が消えてしまった場合は、これらの項目をそのまま記述してから、行を変えて必要 事項を記入して下さい。

概要(その2)



従来技術との比較



活用の効果の根拠



施工実績等(その1)



施工実績等(その2)



施工実績等(その3)



	🗊 新技術情報入力システム	建設版) Ver7.602					
	メニュー 名称・分類	願等 │ 概	要 従来技術との比!	較 k 施工実績等	印刷ブレビュー _	ヘルブ 保存	
- 7	印刷ブルビュー					印刷	
ニイレ	一括印刷 ▲ 名称・	分類等 概	要 従来技術との比較	施工実績等	※ 実際のシ	ステムでは、画面が若干異なりま	:す。
					新技術情報	報入力システム(建設版)	^
	新技術情報						≡
一括印刷または タブ毎の印刷が	技術名称				開発年		
できます。	副題				区分		
	情報提供の範囲	国土交通省の	み国土	交通省以外の公的機	関	*一般	
			レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	
		分類1					
= 1.	二 拓	分類2					
これ		分類3					
		分類4					
		分類5					
	L	安全•安心	会性の向下	環境 公共工事の5	2暂碑碑•向上	情報化	
	ー キー ワード	伝統・歴史・文化	±۱۲۵۸۵۲ ۲	リサイクル	山其唯仆 问上	示证加	
		自由記入					
		省人化	省力化	, 1 	経済性の向上		
これ	開発目標	施工精度の同- 作業環境の向-	上 一时久怕 上 周辺環	:の同上 :遺への影響抑制	安全性の同上 地球環境への	影響抑制	
		省資源・省エネ	ルギ 品質の	向上	リサイクル性向	止	
	Шх		꽃) 바미패				
	開発体制	「した」の「「「「」」」の「「」」「「」」の「「「」」「「」」「「」」」の「「」」「「」」」の「「」」「「」」」の「「」」「「」」」の「「」」「「」」」の「「」」「」」	子/	川先、「(生*)生、	生后、 生子、	」 (住・日・子)	
			NL				~
			i≑ 41				

これは関東技術事務所申請者用マニュアルです

これは関東技術事務所申請者用マニュアルです



*D(I、I)型については、「1年、3年、5年、10年」とサイクルコスト比を記述する。

	1年	3年	5年	10年
新技術				
従来技術				

新技術情報入力	システム(建	設版) Ver7	7.602									
ж <u>-</u>	名称·分類爭	等 1	既要	従来打	技術との比較	施工実績等	; 6	唰ブレビュー	ヘルブ	保存		
刷ブレビュー										ED席		
一括印刷	名称·分	類等すれ	既要	従来技術	との比較 1	施工実績等		※ 実際のシステムでは、画面が若干異なりま				
1++化 桂却								新技	村情報人力システ	・ム(建設版)		
新投例1月報 	-							問がケ				
121111名利	ր 							用 第 千				
副超	达田	ㅋㅜ~,~	4407.		同上去这/	-	+4%88	区分	. 6 Л			
1月報症(洪の)	肥田	国工父通	1900か		国工父週1		版制		*──fīī			
		八拓4		U/\//1		レヘル2		U~JU3	μ^	JL4		
		プ短日										
分類		小枳2	·									
		分類5										
 □Ľ		安全・安心 コスト縮減 伝統・歴史	♪ ?•生産性 P•文化	の向上		環境 公共工事の リサイクル)品質確保	•向上	[] [] 론	₩ ₩ ₩		
2 1		自由記	λ									
		省人化			省力化			経済性の	向上			
開発目標	6	施工精度(作業環境(の向上 の向上		耐久性の向 周辺環境へ	上 の影響抑制		安全性の向上 地球環境への影響抑制				
					슬 개							
								+n)	/ +/			
					担当即者			[1]	3百			
					郵便番号							
		1	技術		住所							
					TEI			FΔ	X			
									~			
					E-MAIL							
門今井生					URL							
回古せ九					会社							
					扣当邹署			扣当	法			
								193	18			
					郵便番号							
		é i	営業		住所							
					TEL			FA	x			
					E-MAIL							
	URL											
					問合せ先(+	その他)						
会社	扣当 新到	要	相当考	Ť	R便番号	住所	TEI	FAY	E-MAII	LIRI		
			12:2.9	1	rkm 7	шл	ILL	THA		UIL		
要(アフストラ	가) 💥	検索結果	に表示す	る技術の	概要です(全	角127文字)						

🗊 新技術情報人力システム(建設版) Ver7.602	
メニュー 名称・分類等 概 要 従来技術との比較 施工実績等 印刷ブレビュー へルブ	保存
印刷ブレビュー	ED刷
 一括印刷 名称・分類等 概 要 従来技術との比較 施工実績等 ※ 実際のシステムでは、画 	面が若干異なります。
	^
①印について何をする技術/400か?	
②従来はどのような技術で対応していたのか?	
③公共工事のどこに適用できるのか?	
技術のアビールボイント(課題解決への有効性)	
新田村でに、前田市である「日本市である」	
利況は及び時時で16200本	
②期待される効果は?(新技術活用のメリットは?) 	
<u>2013</u> (1) ①自然条件	
· / · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
③技術提供可能地域	
④関係法令等	
適用範囲 	~
①適用可能な範囲	
②特に効果の高い適用範囲	
◎適用できない範囲	
留意事項	
①設計時	
②施丁時	
@その他	
沽用の効果 Ltstat2代表は低	
LL取りる此本技術 Lttop Lttop <thlttop< th=""> <thlttop< th=""> <thlttop<< td=""><td>8 Wi</td></thlttop<<></thlttop<></thlttop<>	8 Wi
	×12-
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□	
安全性 向上 同程度 低下	
施工性 向上 同程度 低下	
周辺環境への 影響 の上 同程度 低下	=====
רבר <mark>⊐גראַרל</mark>	

新技術情報	トカシステム(建設版)	Ver7.602								1 2
- TTK	名称·分類等	概要	1	従 来 技術	との比較	施工実績等	印刷プレビ	ュー ヘルブ	保存	
刷ブレビュー									印刷	I
一括印刷	名称·分類等	概要	î	従来技術との	D比較	施工実績等		※ 実際のシステムでは、画	1面が若干異なりま	さす。
活用の効果	の根拠									^
		基準とす	る数	c)	単位				
		里		新見	5任;	分支计步	亦化估(%)			
		2又这些	±	- TID	о Ш					
		·=/月1. 丁程	L		0 日	0 11	0.%			
変化値:マイナスの場合は、低下を示す。										
●新技術の	の内訳		~		7 7 10 7 10					
	->1.300									
項目	什様	数量	単	単価	金額(円)	#	音要		
20	12.14	<u> </u>	包	(円)				134		
				合計	1:0 円/0) あたり				
●従业は	街の内部									
●徙不仅1	에 아가지 하									
-75 []	<i>11</i> +¥	粉旦	単	単価	△按(Ⅲ		+:	<u>م</u> بت		
項日		效里	位	(円)	- 本観(口	·	1	95		
				合計	:0 円∕0) あたり				
每工単価										•
					参考(ji]				
	工種			(「事例)					
	材料費			00			~	00		
	施工費				00		~	00		
	合計				00		~	00		
		歩掛り表あ	り(*椋	票準歩掛	,暫定步	掛 , 協会歩掛	19.11111111111111111111111111111111111			
		5 10 100	• • •		,	191 7 1002012713				
施工方法										
<mark>残された課題</mark>	題と今後の開発計	画								
<mark>桟された課</mark> 員 D今後の課題	<mark>題と今後の開発計</mark> 題	画								
<mark>残された課</mark> D今後の課題 2対応計画	<mark>題と今後の開発計</mark> 題	酉								
<mark>残された課</mark> D今後の課 2対応計画	題と今後の開発計 題	西			中体が	*41				
残された課 D今後の課 D対応計画	題と今後の開発計 題	西			実績伯	数 2004-0-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-				
残された課 D今後の課 2対応計画	題と今後の開発計 題 国土交通省	西			実績伯 そ	数 の他公共機関]	民間		
残された課 D今後の課 2対応計画	 語と今後の開発計 語 国土交通省 0 件 	西			実績件 そ	<mark>数</mark> の他公共機関 0 件]	民間 : 0 f	*	
残された課 D今後の課 2対応計画	題と今後の開発計 題 国土交通省 0件	酉		国十次	実績件 そ	<mark>数</mark> の他公共機関 0件 ける施工実績]	民間 : 0 f	\$ +	
残された課 D今後の課 2対応計画	題と今後の開発計 題 国土交通省 0件 事業種類	西		国土交う	実績件 そ 通省にお(業所名	数 の他公共機関 0件 たる施工実績 施工開始] 	CORINS 登	等 牛 禄 NO	
残された課 D今後の課 2対応計画	題と今後の開発計 題 国土交通省 ○ 件 事業種類	画 地方整備	6名	国土交)	実績件 そ 通省にお(業所名	数 の他公共機関 ○ 件 ナる施工実績 施工開始]] [] [] []	レント・レーマン・レーマン・レーマン・レーマン・レーマン・レーマン・レーマン・レーマン	等 牛 録 NO.	
残された課 D今後の課 2対応計画	センタ後の開発計 電 田土交通省 0 件 事業種類 日本 日本 日本 日本 日本 10 10 10 日本 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	画 地方整備	6名	回土交 回土交 回土交 五五	実績件 そ 通省におい 業所名 通省以外	数 の他公共機関 0件 たる施工実績 施工開始 の施工実績	」 施工終了	レント・レーマン・レーマン・レーマン・レーマン・レーマン・レーマン・レーマン・レーマン	等 録 NO.	

🕡 新技術情報入	カシステム(建	設版) Ver7.60)2					
אבשר	名称·分類爭	⊊ │ 概	要	従来技術との比較	え 施工実績	等 印刷プレビュー	^ルブ	保存
印刷ブレビュー								ED刷
一括印刷	名称·分	類等 概	要	従来技術との比較	施工実績等	実 ※ 実	際のシステムでは、画	面が若干異なります。
特許·実用新	窱							
種類		特許の	の有無			特許番号		
特 許	有り出り	願中 出!	願予定	*無し				
				実施権	通常実施権	専用語	実施権	
				<mark>特許権者</mark>				
	特本悉是			実施権者				
	131111111			特許料等				
				実施形態				
				問合せ先				
				実施権	通常実施権	専用語	実施権	
				特許権者				
	特許番号			実施権者				
				特許料等				=
				実施形態				
				問合せ先				
				実施権	通常実施権	専用語	実施権	
				特許権者				
特許詳細	特許番号			実施権者				
	0.00			特許料等				~
				実施形態				
				問合せ先				
				実施権	通常実施権	専用語	実施権	
				特許権者				
	特許番号			実施権者				
				特許料等				
				実施形態				
				問合せ先				
				実施権	通常実施権	専用語	実施権	
				特許権者				
	特許番号			実施権者				
				特許料等				
				実施形態				
				問合せ先	4451 - 1 1			E
					特許の有無			
実用新案	有り	出原	通中		出願予定		*無し	
	特許番号				実施権	通常実施権	専用実施権	
備考						'		<u> </u>

🕼 新技術情報入力システム(建	設版) Ver	7.602								[
メニュー 名称・分類等	F Í	概	要	従来技術との比重	ž	施工実績等	印刷プレビュー		ヘルブ	(¥	存
印刷ブレビュー											印刷
一括印刷 名称·分数	領等	概	要	従来技術との比較	施」	[実績等	※ 実	際のシフ	マテムでは、i	画面が若干異	はります。
第三者評価・表彰等					•						
				建設技術著	¥査証	明		建設打	支術評価	İ	_
証明機 関											_
											_
<u> </u>											_
				その地の判	中午 に	₽₩₩					_
判屈の夕狂				ての他の利	受守に	-~~~					_
● 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一											_
											_
証明機関							 				_
証明範囲											
URL											
							1				
				評価・証明	項目	と結果					
証明項目					試	検・調査内容			ł	結果	
実験等実施状況											
											_
添付資料											
参考文献											
その他(写真及びタイト)	L)										
											≡
J							 				

提出用ファイルの作成の仕方

①メニュ	- 一画面の「提出用ファイ	、ル作成」ボタンをクリックしてくださ	v،	
これ	 新技術情報人力システム(建設版) Ver7.602 入力されている新技術一覧 技術電告 新技術での 新技術での 新技術での 新技術での 新技術での 			ごす
	≤ □ データ処理方法を選択してください	新技術情報入力システム Ver7602 ヘルブ	>	
	新規作成 データを新規に作成します。 編集 *新技術一覧"で選択されているデータを編集します。 削除 *新技術一覧"で選択されているデータを削除します。	2009/10/30 くVer7601からVer7602への不具合修正点について> 修正点1 提出用ファイル取り込み時、画像ファイルが取り込めない不具合を修正しました。 くはじめにこ これば研技術種組入力システム1のヘルプです。 第システムの操作にあたって、常行の多い準確(こういてここに記します。 また、「新技術種組入力システム13やを無くバージョンファブする場合があります。 以下の以応からずのノロードするか、国主交通名にお問い合わせ下さい。 http://www.kanejiktm.mitegoio/netis/NE Pre DownLoad/tm		
これ	提出用ファイル作成 デザター モニップがられているデータをFD等に保存 します。 データ取り込み FD等よりデータを取り込みます。	<文字の入力について> 【全角文字】または【半角英数】を入力して下さい。 【半角力な力】またして「連続する空白文字】は入力しても「保存されません。 【半角力な力ナ】は【全月力タカナ】に、〔連続する空白文字】」は〔1つの空白文字】」に実換されます。 日付の入力」は【YYYY/MM/DD】の形式で入力して下さい。		です
	<u>『</u> 」開じる(©) プログラムを終了します。	<表の入力について> 行、および所の挿入、削除れてきません。。 ただし、削除ポタンがあるものについては、行の削除れす「能です。	2	

②保存場所を指定して、「保存」をクリックしてください。

こわけ関連	名前を付けて保存				? ×	アルです
こういろ)対シ	保存する場所(1):	🛃 35 インチ F	D (A:)	- 🗢 🖻 🕻	* 🎟	77009
	」 ファイル名(N):	000			(保存(S)	
	ファイルの種類(T)・	接は彼ぞうな				
	2717/201EXe(1)	#/121前了 = 2			//	
						1
			新技術情報入力シ	ステム		
- わけ眼す	有坛術	重 _数	″ A:¥″(ミファイル″く	000.lzh″をエク	スポートしました。	アルでオ
し10日月2	で「メリ」	サイカノ		OK		11009
				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		

③「〇〇〇.1zh」のファイルが出来ました。



④提出の際は、この「〇〇〇.1zh」という圧縮ファイルをお送り下さい。

【区分】	レベル1ーレベル2
------	-----------

詳細説明資料記入例 (工法) (材料)

技術の名称		比較対象とする従来技術	技術名称	
開発会社名			選定理由	
NETIS登録番号	□登録済み:登録番号【 □未登録			
申請先の地方整備局				
分類	[レベル1:]、[レベル2:]、[レベル3:]、[レベル4:]			
使用可能な工事の種類		その他		

	評価項目			申請者記入欄							備考
×	中	小	従来技術のコスト	申請技術のコスト	従来技術との比較<結果>	従来技術積算条件	申請技術積算条件	申請技術の積算方法	添付資料名·番号 (根拠データ等)	従来技術引用元	
経済性	イニシャルコスト										
	ニューン・パーフレ										
	77-77 JXF										
	その他										
	トータルコスト										

	評価項目 申請者記入欄									備考		
×	ф	小	①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により 確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方	「法・機関	 ⑦添付資料名・番号 (根拠データ等) 	⑧基準値等の引用もと	
安全性	構造											
※労働安全衛生法上の安全 等は含まない。	12											
	施工段階											
	※仮設工については施工段階の安 全性は含まない。											
耐久性	物性											
	形状			☆様式	☆様式3を作成する際は、申請マニュアルP.24~P.27、様式3の き方のポイントを参照して下さい。							
	能力			書き方の								
品質·出来形	材料											
	施工											
	完成物											
施工性	合理化											
	現場条件											
	連用範囲											
	自然条件											
	施工管理											
	難易度											
周辺環境への影響	社会環境											
	作枽員環境											

その他	独自基準等の有無	技術指針、設計基準等	有無他()
		稜算基準等	有無他()
		施工管理基準等	有無他()
	その他		

申請者記入欄の語句の定義

1	「現行基準値等」	:基本事項で入力した「使用可能な工事の種類」に応じた現行基準値。<場合により、自社設定値、製造基準値等、品質管理値 >
2	「現行基準との比較」	:「申請技術について実証により確認した数値等」を「現行基準値等」と比較した結果。また、「現行基準値等」に採取条件があり、「数値採取条件」と異なる場合は、その比較結果も入力。文章の場合は要旨。
3	「申請技術について実証により確認した数値等」	:評価項目毎の申請技術の数値等、内容、同要点説明
4	「従来技術との比較」	:技術開発者が想定している従来技術の数値等との比較内容。
5	「申請技術の数値採取条件」	:「申請技術について実証により確認した数値等」を採取したときの条件。
6	「実証方法・機関」	:「申請技術について実証により確認した数値等」の実証方法と確認した機関名。(公共試験機関、自社)
Ø	「添付資料名・番号(根拠データ等)」	:「申請技術について実証により確認した数値等」の根拠となる申請時添付資料の資料番号とその資料名およびページ番号。
8	「基準値等の引用もと」	:「現行基準値等」が掲載されている引用元と、その数値が掲載されている箇所まで具体的に記述。

1

様式3

【詳細説明資料(様式3)の作成】

対象とする従来技術[工法名、理由]
 ※工法に限らず、製品、材料、機械、システムに共通
 ・原則として『国土交通省 土木工事積算基準』に該当する工法を選択する事とする。
 ・最終的に出来形(結果)が同一となる物を選択する事とする。
 ・同業他社、又は自社の技術(新技術)を比較対象としてはならない。
 ・様式2,4で記載するものと統一すること。

【評価項目:経済性】

2, 従来技術のコスト
 ・技術概要説明資料(様式2)の「活用の効果の根拠」項と同一とする。
 ・単位数量を明確にした物を記述する。
 【例】 55,000円/100㎡

3,申請技術のコスト

・技術概要説明資料(様式2)の「活用の効果の根拠」項と同一とする。
 ・単位数量を明確にした物を記述する。
 【例】 48,000円/100㎡

4, 従来技術との比較(結果)

・技術概要説明資料(様式2)の「活用の効果」項と同一とする。 【例】 12.7%向上

5. 従来技術積算条件

・技術概要説明資料(様式2)の「施工単価」で記された、積算条件・施工条件を 記述して下さい。(地質、機種、施工量、規模等積算上必要と思われる条件) 【例】 改良幅 □m 改良厚 ○○mm 施工延長 △△m

6. 申請技術積算条件

・技術概要説明資料(様式2)の「施工単価」で記された、積算条件・施工条件を 記述して下さい。(地質、機種、施工量、規模等積算上必要と思われる条件) 【例】 改良幅 □m 改良厚 ○○mm 施工延長 △△m

7. 申請技術の積算方法

・積算額をどのように算出したかを記述して下さい。 【例】 自社歩掛

8, 添付資料名・番号(根拠データ等)

「申請技術のコスト」で記載された金額について確認できる資料として下さい。

・添付する資料の右上に通し番号をつけて、その番号に対応する資料名と資料番号を記述すること。

- ・添付資料名は、技術概要説明資料(様式2)の「添付資料」と同一とする。
- ・尚、開示できないものは参考資料などとする。
- 【例】【参考資料1】OOO工法工事価格表(積算) 【添付資料1】『国土交通省 土木積算基準』(平成OO年度版)P.O~△△ 【添付資料2】『建設物価』(平成OO年O月号)P.△△△

9, 従来技術引用元

 ・従来技術の積算に際し、引用された発行物名または、協会・自社資料等が分かるよう 名称・発行年・号・頁を記述して下さい。
 ・原則として『国土交通省 土木工事積算基準』、『建設物価』、『積算資料』より引用する。 また場合によっては、各工法協会等で発行する積算資料も可。
 【例】 『国土交通省 土木積算基準』(平成〇〇年度版)P.〇~△△ 『建設物価』(平成〇〇年〇月号)P.△△△ 【詳細説明資料(様式3)の作成】

【評価項目:安全性、耐久性、品質・出来形、施工性、周辺環境への影響等に共通】

①現行基準値等

・『土木工事共通仕様書』や、『道路橋示方書』等示方書、便覧、指針・同解説等より

申請技術が満たさなければならない基準を抜粋し記述して下さい。

【例】 △△強度 ◇N/mm2

・尚、標準的な基準が整備されていない様な場合は、開発時に協会や自社で掲げた規定値、目標などを 基準値、規格値とし記述しても構いません。

②現行基準との比較〈結果〉

・現行基準と申請技術の比較結果を、適合・不適合で記述して下さい。

③申請技術について実証により確認した数値等

・「①現行基準値等」で記された基準を、申請技術が満たしているか実証により確認された内容をできるだけ定量的に記述して下さい。
 【例】 △△強度 ◇N/mm2であることを確認した。

④従来技術との比較〈結果〉

・申請技術と従来技術の比較結果を、向上・同等・低下で記述し、その理由も記述して下さい。
 【例】従来よりも△△強度が増加するので向上

⑤申請技術の数値採取条件

・申請書類に記された数値が、どの様な条件下において得られた物かを記述する。 【例】〇〇mm×〇〇mmの試験体で△△強度を測定

⑥実証方法·機関

・「③申請技術について実証により確認した数値等」の実証方法と確認した機関名の両方を記述して下さい。
 (公共試験機関や自社等)
 (四) へ、は時、(は)のの試験センタ

【例】 △△試験 (財)○○試験センター

⑦添付資料名・番号〈根拠データ等〉

・「③申請技術について実証により確認した数値等」で記された内容を確認できる資料として下さい。

・添付する資料の右上に通し番号をつけて、その番号に対応する資料名と資料番号を記述すること。

- ・添付資料名は、技術概要説明資料(様式2)の「添付資料」と同一とする。
- 尚、開示できないものは参考資料などとする。

【例】 【添付資料3】 試験結果一覧 P.O 【参考資料2】 △△△△要覧 P.O

⑧基準等の引用もと

・「①現行基準値等」で記された基準が、どの書物・文献から引用されたものなのか分かるように 名称・発行年・号・頁を記述して下さい。

・『土木工事共通仕様書』や、『道路橋示方書』等示方書、便覧、指針・同解説等を指す。

【例】『土木工事共通仕様書 ○-○-○ □□』平成○○年板 P.△△~◇◇

【参考】申請技術の基準が、どの様な文献に掲載されているか判断出来ない場合は、 「土木施工管理必携 土木工学編」(財)全国建設研修センター建設研修調査会発行 により、該当工種を検索し、その項の「参考文献」に記載されている文献を参照する 方法が有ります。

・尚、①を協会や自社で設定した基準にした場合は、協会基準や自社基準などとしても構いません。

この様式に記載された事項はNETISに登録され、公表されます

【区分】 レベル1ーレベル2

詳細説明資料記入例(工法)

技術の名称	ОООТ法	比較対象とする従来技術	技術名称	××××工法
開発会社名	株式会社△△		選定理由	一般的に採用実績が多い工法なので、従来技術とし
NETIS登録番号	□登録済み:登録番号【 】 ■未登録			
申請先の地方整備局	関東地方整備局 関東技術事務所			
分類	〔レベル1:建築設備(機械)〕、〔レベル2:給排水衛生設備工事〕、〔レベル3: 〕、〔レベル4: 〕			
使用可能な工事の種類	道路改良工事	その他		

	評価項目					申請者	記入欄				備考
大	中	小	従来技術のコスト	申請技術のコスト	従来技術との比較<結果>	従来技術積算条件	申請技術積算条件	申請技術の積算方法	添付資料名・番号 (根拠データ等)	従来技術引用元	
経済性	イニシャルコスト	単位数量当たり	55,000円/100㎡	48,000円/100㎡	12.7%向上	改良幅 □m 改良厚 OOmm 施工延長 △△m	改良幅 □m 改良厚 OOmm 施工延長 △△m	自社歩掛	【参考資料1】 〇〇〇工法工事価格表(概算)	『国土交通省 土木積算基準』 (平成〇〇年度版)P.〇~△△	-
	ランニングコスト	対象外	-	-	-	—	-	-	-	—	_
	その他	-	-	—	-	-	—	—	-	-	-
	トータルコスト	合計額	55,000円/100m [*]	48,000円/100m [*]	12.7%向上	_	-	_	-	_	

	評価項目			申請者記入欄									
×	中	رار ا	①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により 確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法・機関	⑦添付資料名·番号 (根拠データ等)	⑧基準値等の引用もと			
安全性	構造	〇〇の構造	施工後に△△がないこと。	適合	△△がないことを確認している。	従来も施工後に△△が 無いことから同等	〇件の施工実績	施工実績において自社で確認	【添付資料1】 〇〇〇工法施工要領	『土木工事共通仕様書 O-O -O ΔΔ』平成OO年版 P.ΔΔ~◇◇	-		
※労働安全衛生法上 安全性等は含まない。	の施工段階 ※仮設エについては施工段階の 安全性は含まない。	作業員に対する事故等の防止	作業員に対する事故等が発生 しないこと	適合	20件の施工実績において作業 員に対しての事故等は発生して いないことを確認している。	従来も作業員に対して事故等は 発生してないので同等	〇件の施工実績	施工実績において自社で確認	【添付資料2】 ロロエ事・施工計画書 安全管理	自社基準	-		
耐久性	物性	△△強度	△△強度 ◇N/mm2	適合	△△強度 ◇N/mm2であること を確認した。	従来よりも△△強度が 増加するので向上	OOmm×OOmmの試験体で △△強度を測定	△△試験(財)○○試験センター	【添付資料3】 試験結果一覧 P.O	『土木工事共通仕様書 O-O -O ΔΔ』平成OO年版 P.ΔΔ~◇◇	-		
	形状	□△の耐久性	ロロがないこと。	適合	〇口による口口がないことを確 認した。	従来も〇口による 口口がないので同等	耐口ム試験	ロム試験 (財)〇〇試験センター	【添付資料3】 試験結果一覧 P.△	『道路橋示方書・同解説〇〇 編』 (H△. △月) P.□□~△△	-		
	能力	特性値を保持する期間	-	-	ロロ年以上改修が不要である ことを確認している。	従来は△△年で改修が 必要なので向上	試験施工	〇〇〇工法試験施工 社内検証	【添付資料3】 試験結果一覧 P.□	-	-		
品質·出来形	材料	材料の規格	OOOsil	適合	使用材料はJISOOOであるこ とを確認している。	従来も使用材料は JISOOOなので同等	JIS規格	× ×試験 (財)OO試験センター	【添付資料3】 試験結果一覧 P.O	『土木工事共通仕様書 O-O -O ΔΔ』平成OO年版 P.ΔΔ~◇◇	-		
	施工	使用機械	00を使用して施工すること。	適合	〇〇を使用して施工しているこ とを確認した。	従来も〇〇を使用 するので同等	〇件の施工実績	施工実績において自社で確認	【添付資料1】 〇〇〇工法施工要領	自社規格	-		
	完成物	〇〇の構造仕上げ	厚 ±OOmm	適合	厚 ±〇〇mmの範囲内である ことを確認した。	従来より数値のばらつきが 無いので向上	〇件の施工実績	施工実績において自社で確認	【添付資料1】 〇〇〇工法施工要領	『土木工事共通仕様書 O-O -O ΔΔ』平成OO年版 P.ΔΔ~◇◇	-		
施工性	合理化	工程	-	-	0.5日/100㎡であることを確認し た。	従来は1日/100㎡ 50%の短縮なので向上	〇件の施工実績	施工実績において自社で確認	【添付資料1】 〇〇〇工法施工要領	-	-		
	現場条件	作業スペース	Om×Omの作業スペースが必 要。	適合	Om×Omの作業スペースがあ れば施工可能であることを確認 している。	従来もOm×Omの作業 スペースが必要なので同等	試験施工	〇〇〇工法試験施工 社内検証	【添付資料3】 試験結果一覧 P.□	自社基準	-		
	適用範囲	適用範囲	△△~□□の範囲内であるこ と。	適合	△△~□□の範囲内で施工可 能であることを確認した。	従来より適用範囲が 広がったので向上	試験施工	〇〇〇工法試験施工 社内検証	【添付資料3】 試験結果一覧 P.□	自社基準	-		
	自然条件	天候	悪天候時は施工しないこと。	適合	悪天候時は施工していないこと を確認している。	従来も悪天候時は施工 できないので同等	〇件の施工実績	施工実績において自社で確認	【添付資料1】 〇〇〇工法施工要領	自社基準	-		
		気温	施工時の周囲温度が0℃以上、 40℃以下であること。	適合	施工時の周囲温度が0℃以上、 40℃以下であることを確認して いる。	従来も気温に関する 制約があるので同等	〇件の施工実績	施工実績において自社で確認	【添付資料1】 〇〇〇工法施工要領	自社基準	-		
	施工管理	施工管理項目及び頻度	厚 OOmiに1回	適合	厚の施工管理は、OOmに1回 行っていることを確認した。	従来も施工管理が、〇〇㎡に 1回必要なので同等	〇件の施工実績	施工実績において自社で確認	【添付資料1】 〇〇〇工法施工要領	『土木工事共通仕様書 〇一〇 一〇 △△』 平成〇〇年版 P.△△~◇◇	-		
	難易度	熟練工への依存度	○○の取り扱いには、△△の有 資格者が必要。	適合	○○の取り扱いには、△△の有 資格者が行っていることを確認 した。	従来も〇〇の取り扱いは 有資格者によるので同等	〇件の施工実績	施工実績において自社で確認	【添付資料1】 〇〇〇工法施工要領	自社基準	_		
周辺環境への影響	社会環境	資源	00のリサイクル。	適合	00をリサイクルし施工できるこ とを確認している。	OOをリサイクルしているので 向上	◇◇試験		【添付資料3】 試験結果一覧 P.※	自社基準	_		
	作業員環境	作業員環境	作業員環境への配慮。	適合	作業環境において作業員への 適切な配慮を講じていることを 確認した。	従来技術と同等	〇件の施工実績	施工実績において自社で確認	【添付資料1】 〇〇〇工法施工要領	『土木工事安全技術施工指針 安全措置一般』平成〇〇年版 P.〇〇~〇〇	_		

その他	独自基準等の有無	技術指針、設計基準等	有(自社基準)
		積算基準等	有(自社歩掛)
		施工管理基準等	有(自社基準)
	その他		

様式3

. て××××エ法を選定した。

申請者記入欄の語句の定義

1	「現行基準値等」	: 基本事項で入力した「使用可能な工事の種類」に応じた現行基準値。<場合により、自社設定値、製造基準値等、品質管理値 >
2	「現行基準との比較」	: 「申請技術について実証により確認した数値等」を「現行基準値等」と比較した結果。また、「現行基準値等」に採取条件があり、「数値採取条件」と異なる場合は
3	「申請技術について実証により確認した数値等」	: 評価項目毎の申請技術の数値等、内容、同要点説明
4	「従来技術との比較」	: 技術開発者が想定している従来技術の数値等との比較内容。
5	「申請技術の数値採取条件」	: 「申請技術について実証により確認した数値等」を採取したときの条件。
6	「実証方法・機関」	: 「申請技術について実証により確認した数値等」の実証方法と確認した機関名。(公共試験機関、自社)
$\overline{\mathcal{O}}$	「添付資料名・番号(根拠データ等)」	: 「申請技術について実証により確認した数値等」の根拠となる申請時添付資料の資料番号とその資料名およびページ番号。
8	「基準値等の引用もと」	: 「現行基準値等」が掲載されている引用元と、その数値が掲載されている箇所まで具体的に記述。

☆横項目について、下記の要領で記入してください。

①現行基準値

現在、新技術を施工するにあたり、準用すべき基準、満たさなければならない事項等を出来るだけ詳細に記述して下さい。基準値となる数値等がある場合、その数値も記述して下さい。「特記仕様書による」や「設計図書による」場合は、記述した事例の時はどうだったのかを 具体的に数値で挙げてください。尚、標準的な基準が整備されていない様な場合は、開発時に協会や自社で掲げた規定値、目標などを、基準値、規格値とし記述しても構いません。 ②現行基準との比較

①と③を比較し、その結果を適合か不適合で記述して下さい。

③申請技術について実証により確認した数値等

ここには実証実験や試験施工、計算等で確認された数値などを記述して下さい。出来るだけ定量的な記述をお願いしていますが、対応する基準内容によっては文章による表現である場合もあり得ます。適宜対応してください。 ④従来技術との比較

従来技術はもちろん①現行基準値を満たしているはずですが、その数値と③申請技術について実証により確認した数値等を比較し、向上、同等、低下の中から記述して下さい。合わせてその理由も記述できるとよいでしょう。 ⑤申請技術の数値採取条件

©の実証方法・機関で採取した③の数値等が、いかなる条件下で採取されたものかを記述して下さい。例えば実際に何十メートルもの施工を行った上で、ランダムに採取した数値なのか、試験的に小さなものを作って採取したものなのか、計算値のみなのか等。 ⑥実証方法·機関

ここには行った試験の名称や内容、またそれはどこで行った試験なのかが分かるように具体的な機関名や工事名等を記述して下さい。

⑦添付資料名•番号

ここには、最終的に電子媒体として提出して頂く資料に各々資料番号を付して頂き、その資料名と番号を記述して下さい。最終的に提出して頂くときに資料には通し番号をふって頂きます。 技術概要説明資料・様式2の添付資料で記述されたものと整合させて下さい。尚、開 示できないものは「参考資料」などとして下さい。

⑧基準値等の引用もと

①の基準値等がどの書物・文献から引用したものなのかが分かるように、その書物名や発行年度、引用した章やページも記述して下さい。尚、①を協会や自社で設定した値にした場合は、協会基準や自社基準などとしても構いません。

☆縦項目については、技術により小項目の内容が変わります。資料が何枚になっても構いませんので、技術の分野によって必要と思われる項目は追加してください。尚、縦項目の大・中項目は変更、削除しないで下さい。

※様式3を記述する際、様式2での記載内容と整合するようにして下さい。

その比較結果も入力。文章の場合は要旨。

この様式に記載された事項はNETISに登録され、公表されます

【区分】 レベル1ーレベル2

詳細説明資料記入例(材料)

技術の名称	000	比較対象とする従来技術	技術名称	× × ×
開発会社名			選定理由	□□□で土壤改良材としても使用されており、申請技
NETIS登録番号	□登録済み:登録番号【 】 ■未登録			
申請先の地方整備局	関東地方整備局 関東技術事務所			
分類	〔レベル1:公園〕、〔レベル2:公園植栽工〕、〔レベル3:植栽工(中・低木)〕、〔レベル4: 〕			
使用可能な工事の種類	道路植栽工、公園植栽工	その他		

	評価項目			申請者記入欄								
大	中	小	従来技術のコスト	申請技術のコスト	従来技術との比較<結果>	従来技術積算条件	申請技術積算条件	申請技術の積算方法	添付資料名·番号 (根拠データ等)	従来技術引用元		
経済性	イニシャルコスト	単位数量当たり	90,000円/1000㎡	62,500円/1000㎡	30.6%向上	1,000㎡ 4kg/㎡施用 450円/20kg袋	1,000㎡ 500g/㎡施用 2,300~2,500円/20kg袋	自社歩掛	添付資料-⑧(積算·工程資料)	建設物価(平成〇〇年〇月号) P.△△△	_	
	ランニングコスト	追肥	90,000円/1000㎡	62,500円/1000㎡	30.6%向上	〇年毎の追肥 4kg/㎡施用 450円/20kg袋	〇年毎の追肥 500g/㎡施用 2,300~2,500円/20kg袋	自社歩掛	添付資料-⑧(積算·工程資料)	建設物価(平成〇〇年〇月号) P.△△△	-	
	その他		—	—	-	-	—	—	—	-	-	
	トータルコスト	合計	180,000円/1000㎡	125,000円/1000㎡	30.6%向上	-	-	-	-	-	-	

	評価項目 申請者記入欄								備考		
大	中	小	①現行基準値等	②現行基準との比較<結果>	③申請技術について実証により 確認した数値等	④従来技術との比較<結果>	⑤申請技術の数値採取条件	⑥実証方法·機関	 ⑦添付資料名・番号 (根拠データ等) 	⑧基準値等の引用もと	
安全性	構造	△△量	〇〇に影響がないこと	適合	○○でも問題なく○○すること を確認した。	従来技術のように〇〇の心配 がないため、過剰施用になって も問題なく〇〇するので向上。	それぞれ〇m×〇mの試験区で 施用量を変化させ、◇◇での試 験を実施。	○○試験 □□□総合研究所	添付資料-3(OO試驗結果) 添付資料-5(学会発表論文) 参考資料-2(△△△△要覧)	□□□□法 最終改正 : 平成〇〇年 P.△△~□□	_
※労働安全衛生法上の安全 性等は含まない。		含有微生物	-	-	△△個/gの△△△△という微生 物を含んでいることを確認した。	従来技術より多くの微生物を含 んでおり、土壌団粒化が促進さ れるので向上。	それぞれ〇m×〇mの試験区 で、口口での試験を実施	OO試験 (財)O×食品分析センター	添付資料一④(口口口試験結 果)	-	_
	施工段階 ※仮設工については施工段階	_	_	-	-	_	-	-	-	-	-
	の安全性は含まない。	_	_	_	_	_	_	-	-	-	_
耐久性	物性	000	○○を△△%以上含有する	適合	○○を△△~◇◇%含有してい ることを確認した。	従来技術より〇〇を多く含有し ているので向上。	それぞれ〇m×〇mの試験区 で、口口での試験を実施	〇〇試験 ※※※財団	添付資料-②(○○試験結果) 参考資料-②(△△△△要覧)	自社基準	-
	形状	00	೦೦の∆∆とする	適合	00と00を製造していること を確認した。	従来技術より用途により使い分 けることができ、従来技術より使 用環境が向上。	〇件の施工実績	〇〇㈱製造工場を 自社にて検証	参考資料-④(〇〇〇肥料の 特徴と利用)	自社基準	-
	能力	\$\$	緩効性◇◇	適合	2年間の栽培の結果、pH矯正に よる土壌改良効果と養分供給 効果を確認した。	従来技術より効果が持続する ので向上。	ロロロ研究所で〇年間〇〇の 実施	△△の調査 □□□総合研究所	添付資料一⑤(学会発表論文)	000000 (財)000協会 H□□年 P.00~00	-
品質·出来形	材料	主成分	口口等が、× ×したもの	適合	○○産の□□が××であるこを 確認した。	従来技術より△△を多く含有す るので向上。	それぞれ〇m×〇mの試験区 で、口口での試験を実施	OO試験 (財)O×センター	添付資料一④(口口口試験結 果)	□□□□法 最終改正 : 平成〇〇年 P.△△~□□	_
	施工	施工後の作業	_	-	施工後に〇〇を行うことで、〇 〇することを確認した。	従来技術より〇〇しやすく、〇 〇が早いので向上。	〇〇試験	〇件の施工実績において 自社にて検証	参考資料-④(〇〇〇の特徴と 利用)	_	_
	完成物	植物の生長	植物に影響がないこと	適合	植物の生育を促進させ、対病性 も向上することを確認した。	従来技術より〇〇の効果で対 病性が向上する。	○○県の畑で△△の露地栽培	△△の調査 〇〇〇〇大学	添付資料-⑦(××試験) 参考資料-②(△△△△要覧)	□□□□法 最終改正 : 平成〇〇年 P.△△~□□	_
		pH調整	酸性土壌を改良する	適合	pHO以下の酸性土壌を改良 し、植物の生育に適した環境を 作ることを確認した。	従来技術では他の資材が必要 だが、一つの資材で可能となっ たので向上。	□m四方の試験区で〇〇試験 を行い、△△の分析	○○試験 □□□□総合研究所	添付資料-⑤(学会発表論文)	自社基準	_
		土壤改良	植物の生育に適した土壌を作る	適合	微生物による団粒化の促進や、 pH矯正により、土壌環境が改良 されることを確認している。	従来技術の土壌改良に加え、 pH矯正を同時に行い、より生育 に適した土壌環境の作成を可 能としたので向上。	□m×□mの試験区	○〇調査 (財)○△□分析センター	添付資料-②(〇〇試験結果) 添付資料-④(口口口試験結 果)	自社基準	_
施工性	合理化	△△量	△△量を低減する	適合	○○○~○○○g/㎡であること を確認した。	従来技術は△~△kg/㎡に対 し、〇〇〇~〇〇〇g/㎡で□/ □とし、施工性が向上。	〇件の施工実績	◇◇試験 自社にて検証	添付資料-⑤(学会発表論文)	自社基準	_
		工程	-	-	1日/1000㎡であることを確認し た。	従来も、1日/1000㎡なので同等 である。	〇件の施工実績	1日あたりの施工量調査 自社にて検証	添付資料一⑧(積算・工程資 料)	-	-
	適用範囲	pH条件	pH〇以下の酸性土壌のpHを改 良する	適合	酸性土壌も改良するので、適用 範囲が広いことを確認した。	従来技術より適用範囲が拡大 するので向上。	□m四方の試験区で〇〇試験 を行い、△△の分析	◇◇試験とpH△△試験 (財)△△県農林研究財団	添付資料一③、(OO試験結 果) ⑤(学会発表論文)	000000 (財)000協会 H□□年 P.00~00	-
	自然条件	天候·気温	植物の生育可能範囲内	適合	栽培植物に適した自然条件が 必要である事を確認した。	従来技術と同等	屋内での□m×□mの試験区		参考資料-①(ムムと資材)	自社基準	-
	施工管理	△△量の指導	施工前に△△量の指導が必要	適合	施工業者に△△量の指導をし ていることを確認した。	基準値の倍量で施工を実施し ても問題なく生育するので同 等。	〇件の施工実績	〇〇試験 自社にて検証	添付資料一③、(〇〇試験結 果) ⑤(学会発表論文)	△△と資材 (財)○○○協会 H△△年度 P.○○~□□	_
	難易度	施工に際する知識	未熟、完熟を見極める必要がな い	適合	施用が可能な状態で〇〇でき ることを確認した。	従来技術と違い、誤って未熟な 状態で施用してしまう心配がな いので向上。	〇件の施工実績	△ △ 試験、〇 〇 試験 (財) 〇 × 食品分析センター □ □ □ □ 総合研究所	添付資料-②(○○試験結 果)、③(○○試験結果)、④(□ □□試験結果)、⑦(××試験 結果)	△△と資材 (財)○○○協会 H△△年度 P.○○~□□	_

様式3

ち術の使用目的と近いため×××を選定した。

周辺環境への影響	社会環境	化学肥料削减	環境に悪影響を与える化学肥 料の使用量削減	適合	肥料効果もあるため、化学肥料 の代替品となることを確認した。	従来技術より化学肥料を使用し ないため環境への負荷を軽減 できるので向上。	□m×□mの試験区	OO試験 (財)O×センター	添付資料一②(〇〇試験結果)	自社基準	_
	作業員環境	天然品の使用	-	-	天然品のため、作業員に対して も安全に使用することが可能で あることを確認した。	従来技術と同等	〇件の施工実績	〇〇試験 自社にて検証	参考資料一①(△△と資材)	-	_
その曲	猫白其道徳の方毎	计法定公 动科甘油体	友(白汁甘准)								
ての1世	低日本牛守いう木	汉州相對、政制墨牛女	有(日社委学)								
		積算基準等	有(自社歩掛)								
		施工管理基準等	有(自社基準)								
	その他										

申請者記入欄の語句の定義

1	「現行基準値等」	: 基本事項で入力した「使用可能な工事の種類」に応じた現行基準値。<場合により、自社設定値、製造基準値等、品質管理値 >
2	「現行基準との比較」	: 「申請技術について実証により確認した数値等」を「現行基準値等」と比較した結果。また、「現行基準値等」に採取条件があり、「数値採取条件」と異なる場合は
3	「申請技術について実証により確認した数値等」	: 評価項目毎の申請技術の数値等、内容、同要点説明
4	「従来技術との比較」	: 技術開発者が想定している従来技術の数値等との比較内容。
5	「申請技術の数値採取条件」	: 「申請技術について実証により確認した数値等」を採取したときの条件。
6	「実証方法・機関」	: 「申請技術について実証により確認した数値等」の実証方法と確認した機関名。(公共試験機関、自社)
$\overline{\mathcal{O}}$	「添付資料名・番号(根拠データ等)」	: 「申請技術について実証により確認した数値等」の根拠となる申請時添付資料の資料番号とその資料名およびページ番号。
8	「基準値等の引用もと」	: 「現行基準値等」が掲載されている引用元と、その数値が掲載されている箇所まで具体的に記述。

横項目について、下記の要領で記入してください。

1)現行基準値

現在、新技術を施工するにあたり、準用すべき基準、満たさなければならない事項等を出来るだけ詳細に記述して下さい。基準値となる数値等がある場合、その数値も記述して下さい。「特記仕様書による」や「設計図書による」場合は、記述した事例の時はどうだったのかを 具体的に数値で挙げてください。尚、標準的な基準が整備されていない様な場合は、開発時に協会や自社で掲げた規定値、目標などを、基準値、規格値とし記述しても構いません。 ②現行基準との比較

①と③を比較し、その結果を適合か不適合で記述して下さい。

③申請技術について実証により確認した数値等

ここには実証実験や試験施工、計算等で確認された数値などを記述して下さい。出来るだけ定量的な記述をお願いしていますが、対応する基準内容によっては文章による表現である場合もあり得ます。適宜対応してください。 ④従来技術との比較

従来技術はもちろん①現行基準値を満たしているはずですが、その数値と③申請技術について実証により確認した数値等を比較し、向上、同等、低下の中から記述して下さい。合わせてその理由も記述できるとよいでしょう。 ⑤申請技術の数値採取条件

⑥の実証方法・機関で採取した③の数値等が、いかなる条件下で採取されたものかを記述して下さい。例えば実際に何十メートルもの施工を行った上で、ランダムに採取した数値なのか、試験的に小さなものを作って採取したものなのか、計算値のみなのか等。 ⑥実証方法·機関

ここには行った試験の名称や内容、またそれはどこで行った試験なのかが分かるように具体的な機関名や工事名等を記述して下さい。

⑦添付資料名•番号

ここには、最終的に電子媒体として提出して頂く資料に各々資料番号を付して頂き、その資料名と番号を記述して下さい。最終的に提出して頂くときに資料には通し番号をふって頂きます。 技術概要説明資料・様式2の添付資料で記述されたものと整合させて下さい。尚、開 示できないものは「参考資料」などとして下さい。

⑧基準値等の引用もと

①の基準値等がどの書物・文献から引用したものなのかが分かるように、その書物名や発行年度、引用した章やページも記述して下さい。尚、①を協会や自社で設定した値にした場合は、協会基準や自社基準などとしても構いません。

☆縦項目については、技術により小項目の内容が変わります。資料が何枚になっても構いませんので、技術の分野によって必要と思われる項目は追加してください。尚、縦項目の大・中項目は変更、削除しないで下さい。

※様式3を記述する際、様式2での記載内容と整合するようにして下さい。

その比較結果も入力。文章の場合は要旨。

様式4

技術名 : 〇〇〇工法

新技術 類似技術 類似技術 従来技術 類似技術 <u>000工法</u> ××××工法 ◇◆◇工法 △▲▽機工法 ∞∞工法 ○○を用いた△△をする 工法概要 口口工法である。 この列には様式1・2・3で記載した新技術 と同一のものに関して記載して下さい。 この列には様式2・3で記載した従来技 術と同一のものに関して記載して下さい。 この列にはNETIS上にある類似の技術、及び 載っていないが知っている類似の技術について、記 概略図 載して下さい。 48,000円/100m^{*} $\Delta \Delta \Delta \square / 100 m$ 経済性 55.000円/100m^{*} (△△%向上) (12.7%向上) 評価 0 _ Ο ■く比較表について> ①比較表は従来技術を基準に新技術、類似技術を比較してください。 0.5日/100m¹ □□□/100m² 工程・工期 1日/100m (00%短縮) (口口%短縮) ■②従来技術は、様式2・3で記載した従来技術と同一のものを記載して下さ。 評価 0 0 ■い。また、類似技術については、NETIS上で検索できる技術を最低網羅してく _ ださい。 品質 JISOOOを使用 JISOOOを使用 JISOOOを使用 ■③技術の種類によって、比較の項目を付加する必要がある場合は、適宜対 ■応して下さい。(安全性より下へ追加してください。ページ数が増えるのは構い 評価 Δ Δ _ ■④項目の変更、削除はしないで下さい。 出来形 厚 ±OOmm 厚 ±OOmm 厚 ±OOmm ■⑤サイズは500KB以下にして下さい。 ⑥Excel、A4横で作成して下さい。 評価 Ο _ Δ ■⑦従来技術の評価欄は、全て「-」として下さい。 Om×Omの施エヤード Om×Om以上の施工ヤード Om×Omの施エヤード 現場条件 ■⑧対象とならない項目は、「-」を記入して下さい。 があれば施工可能。 が必要である。 が必要である。 - ⑨類似技術は、新技術・従来技術で記述された内容(同一の視点)について、 評価 Δ _ Δ ■NETIS情報で確認できることを記載して下さい。評価項目に記述できない場合・ 設計条件 設計時に〇〇の確認が必要。 設計時に〇〇の確認が必要。 設計時に△△であるか確認が必要。 ■は、評価も「-」を記入して下さい。 評価 Δ Δ _ ☆様式4を作成する際は、申請マニュアルP.29、様式4の書き方のポイント ■を参照して下さい。 安全性 $\Delta \Delta m$ $\Delta $\Delta \Delta matrix \delta hard black$ $\Delta \Delta m$ ないこと。 評価 Λ Δ _ NETIS番号 _ _ $\Delta \Delta - \Delta \Delta \Delta \Delta \Delta$ • • • • 備者 _ 総合評価 0 Ο _

比較表記入例

【詳細説明資料(様式4)の作成】

1, 技術名

- •新技術
- 技術概要説明資料(様式1、2、3)で記述したものと同一とする。
- ・従来技術

技術概要説明資料(様式2、3)で記述したものと同一とする。

・類似技術
 新技術、従来技術と似ている技術をNETIS情報から検索し、最低網羅してください。
 (NETIS情報に掲載されていないものでも構いません。)

2, 工事概要

・箇条書きで簡潔に記述してください。

(新技術・類似技術は、アブストラクトを記述されても構いません。)

3. 概略図

・視覚的に特徴がつかみやすい写真や図画などを記載してください。

4. 経済性

・技術概要説明資料(様式2、3)で記述した内容と同一とする。
 【例】48,000円/100㎡
 ※類似技術は、NETIS情報で掲載されている単位数量当たりの金額を記述して下さい。
 新技術・従来技術と同じ単位数量当たりの金額ではない場合、評価は「一」を記述して下さい。
 新技術・従来技術と同じ単位数量当たりの金額に換算して記述できる場合は、NETIS情報の
 金額の下に()書きで、換算された単位数量当たりの金額を記述し、その金額で評価をして下さい。
 【例】 ムムム円/10㎡

(▲▲▲円/100m △△%向上)

5, 工程·工期

・技術概要説明資料(様式2、3)で記述した内容と同一とする。 【例】 0.5日/100㎡ ※類似技術は、NETIS情報で掲載されている単位数量当たりの工程を記述して下さい。 新技術・従来技術と同じ単位数量当たりの工程ではない場合、評価は「一」を記述して下さい。 新技術・従来技術と同じ単位数量当たりの工程に換算して記述できる場合は、NETIS情報の 工程の下に()書きで、換算された単位数量当たりの工程を記述し、その工程で評価をして下さい。 【例】 口口日/10㎡

(■■日/100m □□%向上)

6,品質~安全性

・技術概要説明資料(様式2、3)で記述した内容と整合するように記述して下さい。 ※類似技術に関して記述する際、新技術・従来技術の記述と同じ内容(同一の視点)について、 NETIS情報で確認できることを記述して下さい。評価項目に記述できない場合は、 評価も「一」を記入して下さい。誤った内容や中傷するような内容は記述しないよう注意して下さい。

7,評価

・従来技術との比較結果を下記の中から選び記述して下さい。

著しく向上: ◎ 向上 : ○ 同等 : △

低下 : >

※従来技術を基準とし新技術、類似技術を比較するので、従来技術の評価は、全て「-」で記載して下さい。

8, NETIS番号

・NETIS上から検索した類似技術のNETIS番号を確認し記述して下さい。
 【例】 KT-000000-A

9, 備考

・特筆すべき事項などを記述して下さい。

10,項目の追加

・経済性~安全性までの7項目以外でも、技術の特徴となる項目があれば安全性より 下へ追加し、記述して下さい。 【例】環境性、施工性

変更・更新申請書(様式 I-15)の記入について

申請書にご記入していただく内容の不備が大変多くなっております。

作成の際は必ず注意事項をご確認ください。



実施規約 同意書(様式 I-19)の記入について

実施規約 同意書にご記入していただく内容の不備が大変多くなっております。 作成の際は必ず注意事項をご確認ください。



見	本
エ	1

資料K-3

年 月 日

関東技術事務所 新技術担当者殿

会社名 公印

郵送物等送付先登録申請(新規·更新)

郵送物等の送付先については、下記へ送付願います。

また、人事異動等で担当者や取り扱い部署に変更は生じた場合は、速やかに 新規担当者を書面にて伝えるものとします。

印

* 郵送物等送付先登録申請書の提出について* 登録された概要説明資料に記載されている連絡先へ郵送物等を送付した際、 担当者の転勤・退社等の理由でそのまま返送されてくる事が多々あります。新 技術情報の掲載については会社として責任をもっていただけるようお願いして います。(申請が個人の場合を除く) よって、郵送物等が返送されてきた場合は、「申請者と連絡が取れない技術」と して取り扱います。

平成 年 月 日

新技術担当 殿

00(株)

新技術登録に際し、提出する電子媒体資料のコンピュータウィルス (発見、感染、発病)についての確認報告書

コンピュータウイルスの(発見・感染・発病)について、異常がなかったことを下記のとおり報告します。

記

新技術名称

登録番号(更新時のみ)

会社名

実務担当者名

TEL(外線及び内線番号)

E-mail

チェックした駆除ソフト名

チェックした年月日

【注意事項】

- 注1 変更・更新データは、必ず最新の『新技術情報入力システム』により作成して下さい。 なお、最新の『新技術情報入力システム』により、お手元の元データを読み込むと「概要」 「適用条件」等、既に記載されている項目が消えてしまう場合がありますので、その箇所については 「申請書類作成マニュアル(P. 8・9)」及び「資料提出前チェックシート」を参考に①・・・、②・・・等の 項目を記入してから、それぞれに答えるような形式にして下さい。
- 注2 最新データを印刷したものに、変更・更新箇所が分かるように、蛍光ペン等で着色しPDF化して下さい。
- 注3 既に提出されている方で技術の内容が改善された場合などは、申請者の意志により新たに提出 されることも可能です。
- 注4 変更・更新用書類作成後、提出書類一式を送信する前に、更新セットにある 「関東技術事務所用変更・更新書類提出前チェックシート(更新用)」にて間違いがないか 自己診断を行って下さい。
- 注5 特許関係資料(資料K-1)、開発体制資料(K-2)について
 ※初回(前回)提出時に出願中で現在特許を取得した(または特許を取得できなかった)場合など、
 状況が変わった場合に提出して下さい。
- 注6 電子媒体資料(MO・CD-RW) ※関東技術事務所では新規申請の際、新技術に関するパンフレットや学会資料などの電子化に ご協力していただいております。 変更・更新手続きの際、電子化された新技術に関わる資料と収納されているデータの目次の提供を

お願いします。

(重要)必須データとして、様式3にて記入した添付資料・参考資料のコピー(スキャナー等で読み込んだ物)

実施規約同意書についての注意事項

・実施規約同意書(様式 I – 19)は必ずA3横・両面印刷としてください。表裏2枚をのり付けしたもの、表裏一枚ずつのままのもの、天地逆のもの等で提出された場合は、受理出来ません。 ・掲載内容には必ず代表者印を押してください。

・誤記等の掲載ミスも虚偽記載として扱われる場合があるため、慎重に記入してください。

〒270-2218 千葉県松戸市五香西6-12-1 国土交通省 関東技術事務所 施工調査課 新技術担当 TEL 047-389-5127 FAX 047-389-5159 http://www.ktr.mlit.go.jp/kangi/ E-mail:netis@ktr.mlit.go.jp